

1 学校教育目標

- 自ら考え、自ら学ぶ人 ○ 感性あふれる、心豊かな人 ○ 心身を鍛え、たくましく生きる人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

- | | | |
|---------|------------------------------|------------------------------------|
| ○学校像 | ○ 生徒一人一人の可能性を伸ばせる学校 | ○ 地域・保護者・生徒から信頼される学校 |
| ○児童・生徒像 | ○ 勤勉な生徒 ○ ルールを守り礼儀正しい生徒 | ○ 他者を思いやる人 ○ 夢を育む人 |
| ○教師像 | ○ 教職としての専門性を高める教師 | ○ 自他の人間性を高める教師 ○ 組織で教育を実践する教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

＜学校の現状＞

- ◎学校について
 - [よさ] 創立16年目を迎え、新たな10年を創造することが日々の活力と充実感の源となっている。
 - [課題] 学校経営方針の具現化に向けた教職員の組織力の向上。
- ◎生徒について
 - [よさ] 素直で明るく誠実、授業は真剣に取り組む。特別活動・部活動にも意欲的に活動している。
 - [課題] 自ら課題を設定し、解決していこうとする力を向上させることが課題である。
- ◎教師について
 - [よさ] 教員一人一人が個々の可能性を伸ばす研鑽に努め、自らの研修課題に積極的に取り組んでいる。
 - [課題] 教職員全体の資質向上、指導力の育成を図る組織的な「OJT、Off-JT」の充実を図る。
- ◎保護者・地域について
 - [よさ] 生徒の教育に関心があり熱心である。
 - [課題] PTAのサポータ制度を活性化させ、広範な通学地域である保護者をまとめ具体的な活動の充実を図る。

＜前年度の成果と課題＞

- 成果・コロナ禍の中、生徒は我慢と不便を重ねながらも新しい生活習慣を身に付け、落ち着いた生活習慣と学習に向けた取組ができた。
- ・オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、オリンピック・パラリンピック教育を継続し東京2020大会への機運を継続することに努めた。
 - ・ICT教育モデル校として、オンライン授業やタブレット等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学習意欲を高めることができた。
- 課題・主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた授業を実現させ、今後求められる確かな学力の定着を図る。
- ・ICT教育を推進し、GIGAスクール構想の実現を目指す。
 - ・東京2020大会開催が生徒たちの心のレガシーなるように大会終了後も持続可能な教育の在り方を模索していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	ICT教育の推進			○	○	○
3	オリンピック・パラリンピック教育の学校全体での組織的・計画的な推進	○	○	○		

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)			コメント・課題		達成度 ◎○△●
・学力向上アクションプランの実践を通して、各種学力調査等に対応できる確かな学力を定着させる。		令和3年度区学力調査通過率 各学年・各教科75%以上 平均正答率・73%以上 年度末到達度調査 平均正答率・各教科73%以上		通過率			本校の達成基準（目標通過率、平均正答率）は全国レベルの目標値よりも10%以上高く設定してある。60%台の数値は課題があると考えている。生徒には自身のつまずきを把握し、主体的に克服するように指導していく。教員には傾向を理解させ、自身の授業改善や補充学習の取り組み方の改善につなげていく。		○
				国語 1 84.9 2 75.8 3 74.5 数学 1 86.8 2 79.7 3 77.7 英語 1 87.4 2 66.7 3 73.2 平均正答率 国語 1 75.3 2 75.0 3 76.1 数学 1 78.3 2 64.5 3 64.7 英語 1 90.7 2 69.6 3 68.2 年度末到達度調査 国語 1 77.1 2 72.5 数学 1 60.0 2 55.6 英語 1 69.9 2 62.7					
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	授業改善	全学年 全教科	年間を 通した 授業観 察 研究授 業・研究 協議	【指導体制】 管理職等、教員 【取り組み内容、目的】 指導者は学習指導案（略案）の作成、管理職等は授業への指導・助言教員相互の意見交換 授業力を向上させ、生徒の学力向上を図ることが目的 【使用教材】 指導案・教科書	学校評価（生徒・保護者・学校関係者）教員による自己評価	学校評価の「授業がよくわかる」の項目で90%以上が肯定的に答える 教員による自己評価で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の項目で90%以上が肯定的に答える	学校評価の「授業がよくわかる」の項目で97% 教員による自己評価で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の項目で76%	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業」「指導と評価の一体化」のための研修を行い、授業改善を図ってきた。全体的な授業デザインの改善を図っているが、教員個々、教科による差がある。学校全体で共通理解・共通実践を進めることが課題	○

2 継続	放課後補充教室	全学年 国語・数学・英語・社会 理科コンテスト 正答率 80%未満	年間10 回以上のコン テスト実施後 各一週間	【指導体制】 教科担任＋学年担当 【取組内容、ねらい・目的】 基礎的な既習内容の復習 確認を行い、学力定着を図 る。 【使用教材】各教科のコン テストプリント	各教科のコン テストの再テ ストを実施	各教科コンテ ストで全員が 正答率80%以 上の結果を出 す	全学年、全教科各学 習コンテストで全員 が正答率80%以上 を達成	学習意欲をもって生 徒、教職員ともに実 施していた。コンテ ストの内容を授業内 容や発達段階に応じ て改善していくこと が課題	○
3 改善	放課後質 問教室	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科 希望者	年間4 回の定期 考査 実施前 の1or 2週間	【指導体制】 学年教科担任＋学年担当 【取組内容、ねらい・目的】 学習内容の再確認と疑問 点の改善 【使用教材】 各教科の教科書・ワーク	年間4回の定 期考査	定期考査で全 員の正答率を 10%以上上昇	定期考査変更、休校 等で放課後質問教室 が実施できなかった	第2回定期考査が急 遽、日程変更となり 実施できなかった。	△
4 継続	イングリ ッシュフ ライデー	全学年 英語	毎週金 曜日 昼時間	【指導体制】 英語科教員＋担当教員 【取組内容、ねらい・目的】 昼の放送すべてを英語で 流し、リスニング能力の向 上を図り、英語に親しませ る。 【使用教材】 必要に応じて英語の教科 書	英語の授業で 行うミニテ スト	通常の連絡事 項を全員が英 語で聞き取れ るようにする。	昼の放送については 全学年とも英語で聞 き取れるようになった。 。	毎週金曜日の昼の放 送を、英語を活用し て行った。英語への 興味関心は高い。	○
5 改善	Welcome to Japan	全学年 英語	各行事 前後2 週間程 度の事 前事後	【指導体制】 教科担任＋学年教員 【取り組み内容、ねらい・ 目的】 外国人と会話を交わすこ とで英会話効力の向上。 【使用教材】 英語の教科書・海外映像	校外学習・T GG・修学旅 行後の事後学 習と英会話で の事後発表	国際理解教育 の一環として 英語でコミュニ ケーションを とれるよう にする。	校外学習、修学旅行 では実施不可。 TGGではコミュニ ケーションの機会をも つことができた。	町中に外国人がほぼ いないので、修学旅 行や校外学習で実践 することができなかつ た。TGGでは効果的 に英語に親しむこと ができた。	△

重点的な取組事項－２		ICT教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
情報教育研究拠点校として、授業等における ICT 機器の活用の活性化を通し、学習意欲の向上と学力定着、学校生活の充実を図る。		生徒・保護者・学校関係者アンケート ICT 教育項目 90%以上 教員自己評価 ICT 教育項目 90%以上	生徒：肯定意見 97% 保護者：肯定意見 73% 教員自己評価 ICT 教育項目 70%	情報教育研究推進拠点校として全教員が ICT 機器を積極的に活用していた。授業、家庭学習、補充学習に効果的に活用することが課題	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業における ICT 機器の活用を通じた学習意欲の向上	全学年、全教科で授業の導入で ICT 機器を活用した授業を行い、学習意欲を向上させる。 生徒アンケート ICT 教育項目 90%以上 教員学校評価 ICT 教育学習意欲項目 100%	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 ①全学年全教科の授業で ICT 機器を活用し、生徒が興味関心をもち、見通しをもって授業に取り組めるようにする。 【使用教具】 タブレット、デジタル教科書、大型ディスプレイなど	情報教育推進校として指定を受け、全学年全教科の授業でタブレット、デジタル教科書、大型ディスプレイなどの ICT 機器を活用し、生徒が興味関心をもち、見通しをもって授業に取り組めるようにし、年 2 回の研究授業を行い、自校の研修及び区内の教員の指導力向上に努めることができた。	2 回の研究授業を通して、教員 1 人 1 人の能力向上を図った。全教員が端末を教室に持ち込み活用している。区内の他の教員の研修にも貢献することができた。	◎
ICT 機器の活用を通じた学力の定着	全学年、全教科で授業やデータ処理等で ICT 機器を活用し、学力定着を図る。 生徒アンケート ICT 教育項目 90%以上 教員学校評価 ICT 教育学習意欲項目 100%	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 授業や調べる学習、データ収集等で ICT 機器を活用し、学力の定着を自覚させる。 【使用教具】タブレット、デジタル教科書、大型ディスプレイなど	授業や調べる学習、データ収集等でタブレット、デジタル教科書、大型ディスプレイなどの ICT 機器を活用し、生徒たちに学力の定着を図り、各教科で振り返りを行い生徒たちに学力の定着を自覚させた。	Google クラウドを活用して各学年、各教科で ICT 機器を活用している。次年度は h 導入予定の AI ドリルを活用して学力定着を図っていく。	○
学校HP、情報配信システムを通じた情報発信による学校への信頼度の向上	生徒・保護者アンケート 学校 HP、情報配信システム項目 90%以上	【指導体制】 管理職・担当教員 【取組内容、ねらい・目的】 学校 HP、情報配信システム担当を決め、適宜適切な情報を配信する。 【使用教具】 学校 HP 情報配信システム	管理職を含め、学校 HP、情報配信システム担当を決め、適宜適切な情報を配信し、生徒、保護者に学校への関心を高めるとともに適宜、適切な情報を配信することにより学校への信頼性を高めることができた。	コロナウイルス感染症による休校期間や急な連絡が必要なときに積極的に活用することができた。	○

重点的な取組事項－3		オリンピック・パラリンピック教育の学校全体での組織的・計画的な推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
・オリンピック・パラリンピック教育をカリキュラムマネジメントの中心に据え、生徒と共にオリンピック・パラリンピックの意義を知り継続的に意識啓発を図り、東京2020大会への機運を高める。	・全校生徒のオリンピック・パラリンピック大会への興味・関心度 80%を目指す。	興味・関心度を数値で表すことはできないが、「勝手に応援プロジェクト」「レガシープロジェクト」には生徒全員が参加した。	三宅選手の勝手に応援プロジェクトを実施し、集大成とすることができた。レガシープロジェクトを実施し、継続させることが課題	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
・多様なスポーツへの興味関心の向上と、心身ともに健全な生徒の育成（スポーツ志向）	・都体力統一テストの数値を令和元年度の値から、向上させる。 ・全国の平均値を全学年男女とも上回る。 ・様々なスポーツ選手による講演会の実施＝1回	・都や全国の生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査報告書を分析させ、主体的に体力向上の方策を探し実践させる。 ・体力向上に興味関心をもたせ主体的に運動に取り組む習慣をつけさせる。 ・スポーツ選手を講師として招聘し、講演会や体験教室を実施する。	・都や全国の生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査報告書を分析させ、主体的に体力向上の方策を探し実践させた。 ・体力向上に興味関心をもたせ主体的に運動に取り組む習慣をつけさせた。 ・スポーツ選手を講師とした講演会や体験教室を実施することはできなかったが、三宅宏実選手への勝手に応援プロジェクトを実施することができた。	・コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、体力調査を実施することができた。個々の課題、学校全体の課題解決を図っていくことが課題。 ・講師招聘はできなかったが、三宅宏実選手への勝手に応援プロジェクトを実施することができた。	○
・「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」「グローバル化に対応したコミュニケーション力」の育成	・海外ボランティア経験者による講演会＝1回以上 出前講座＝1回以上 ・外国人留学生と英語交流など＝3日以上	・国際貢献活動経験者の方を招聘し、「日本人としての自覚と誇り」をもてるような国際理解教育を実施する。 ・JICAボランティア経験者による「出前講座」により「豊かな国際感覚」を身につけさせる。 ・外国人留学生との交流をとおして、「グローバル化に対応したコミュニケーション力」を育てる。	・講演会は実施できなかったが、JICAボランティア経験者の方の「出前講座」により3年生には「日本人としての自覚と誇りや豊かな国際感覚」を身につけさせた。 ・外国人留学生との交流をとおして、「グローバル化に対応したコミュニケーション力」を育てることはできなかったが、2年生は校外学習（TGG）で外国人と交流することができた。	・全学年で校外学習を通して実施することができたが、外国の方が少なく量的には減った。 ・3年生にはJICAボランティア経験者による出前講座を実施した。国際理解を図る大きな経験となった。 ・外国人留学生との交流はTGGのみの実施となった。	△

<p>・「ボランティアマインド」の醸成 と「障害者理解」の心の育成</p>	<p>・ボランティア活動参加延べ人数 =80%以上 ・パラリンピアンまたは技師装具士による講演会 =年1回</p>	<p>・地域行事、ごみゼロ運動への参加をとおして「ボランティアマインド」を育む ・パラリンピアンや義肢装具士の方を講師として招聘し、講演会の実施や体験教室を実施し「障害者理解」の心を育てる。</p>	<p>・コロナウイルス感染症の影響により地域行事、ごみゼロ運動への参加はできなかったが、2年生は「未来を照らすプロジェクト」を通して地域の課題について外部講師と共に考え、解決策を発表することをおしてボランティアマインドを育てることができた。 ・コロナウイルス感染症の影響でパラリンピアンや義肢装具士の方を講師として招聘し、講演会の実施や体験教室を実施することはできなかったが、道徳の授業等をおして「障害者理解」の心を育てた。</p>	<p>・道徳の授業や生徒会活動を通してボランティアマインドを育てることができた。 ・2年生は「未来を照らすプロジェクト」を通して地域の課題を考えることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響でパラリンピアンや義肢装具者を招聘して講演会や体験教室を実施することができなかった。</p>	<p>△</p>
---	---	---	--	--	----------

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

<成果>

- 新型コロナウイルス感染症の度重なる波の中、保護者の皆様の協力のもと、生徒たちは新しい生活習慣を定着、継続させ、教職員とともに一丸となって臨機応変に対応しながら教育活動を行うことができた
- 新学習指導要領全面実施1年目を迎え、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた」授業改善を目指し、「指導と評価の一体化」に取り組み、学習指導要領が求める確かな学力の定着を図ることができた
- 情報教育推進拠点校として足立区より指定を受け、ICT機器を活用した授業や特別活動について研修を積み、実践することで学習意欲の向上や学校行事の円滑な運営など学力定着や学校生活の充実として生徒たちに還元できた
- ノーチャイムの授業開始、終了や学習コンテスト、自己指導力を育成する生活指導、生徒が自ら目標や計画を立てたり、地域の教育力などを活用したりする学校行事などの取組をとおして生徒たちに自ら考え行動しようとする自律心を育成することができた
- 「ハートフルウィーク（教育相談週間）」や「心の声を聴かせて」などの取組をとおして、コロナ禍における生徒たちの心のケアを図るとともに困った時は抱え込まず、誰かに話そうとしたり相談したりしようとする態度を育成することができた

<課題>

- コロナウイルス感染症の終息を迎えるまで、新しい生活習慣を継続しながら、円滑で効果的な教育活動を行うこと
- 学習指導要領全面実施2年目を迎えるにあたり、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた」授業体制を学校として確立すること
- GIGAスクール構想の実現に向けて、授業や家庭学習におけるICT機器の活用の更なる発展と充実をとおして学習の個別最適化を図り、生徒一人一人に確かな学力をつけていくこと
- ICT化が進む中で、学校という集団生活の場だからこそ育成できる価値ある能力や資質向上を図っていくこと
- 自律心を育てる教育活動を継続し、生徒たちが自らの力で前向きな学習、生活を送り、たくましく生きる力を身に付けさせること

(2) 保護者や地域へのメッセージ

令和3年度も本校の教育活動は新型コロナウイルス感染症の影響を受けざるを得ませんでした。思うように進まない学習活動、度重なる学校行事の延期や中止など保護者の皆様、地域の皆様にはご心配・ご迷惑をおかけいたしましたことに心よりお詫び申し上げます。にもかかわらず、常に温かい目で生徒たちを見守り、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

おかげさまで、生徒たちが楽しみにしている「桜魂祭(運動会)」は無観客というご協力により種目を増やして無事に行うことができました。感染が落ち着いていた時には、昨年度実施できなかった「修学旅行」や「校外学習」を全学年で実施できました。2年生の「未来を照らすプロジェクト」では「職業体験」が中止となる中、地域の皆様にご協力いただき、地域の皆様の力で生徒たちの課題解決能力を大きく成長させていただきました。3年生の「模擬選挙」の授業では足立区選挙管理委員会の皆様、マスコット犬「エラビー」にもご来校いただき、将来の主権者として臨場感あふれる授業ができました。

生徒たちはこうした状況の中、新しい生活習慣を定着させ、「できることをできる限り」の精神で自らの目標に向かって明るく、前向きに学校生活を送っていました。この先、新型コロナウイルス感染症の状況はどのように変化していくか全くわかりませんが、千寿桜堤中学校は生徒たちの命、心、未来を守ることを念頭に感染状況によって臨機応変に対応し教育目標の達成を目指してまいります。保護者の皆様、地域の皆様には変わらぬご理解・ご協力・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

今年度も新型コロナウイルス感染症の状況を常に鑑みての教育活動となった。生徒たちには我慢を強いり、保護者の皆様や地域の皆様にはご挨拶する場面もなく申し訳ない思いでいっぱいである。教職員にも臨機応変の対応を求め、かなりの無理を強いることとなった。

こうした状況の中、生徒たちの学力保障、心のケア、進路の実現を図ることを柱として考え1年間の教育活動を行ってきた。足立区教育委員会には様々な場面で支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいである。

今後も生徒の心身の健康、成長を第一と考え教職員一丸となって「できることをできる限り」、日々ベストを尽くしていく所存である。